2019年4月18（木）

差枚	+1481枚	RANK	A

実戦機種

パチスロ蒼天の拳 朋友

実戦レポート

パチンコ、パチスロ好きな人たちの間では、たびたび議論されるテーマがある。それはほとんどが、「結論としてはこうだよ」と一概には言えないものばかりで、時期によってホールによって千差万別の正解がある。その中の一つが、“新台の扱い方”である。
この企画でオレが実戦させてもらっているホールでは、新台にはまず高設定を入れてくれる、という傾向が非常に多かった。もちろん全てのお店がそうではないし、同じホールでも「前回は入ったけど、今回はダメだった」というケースもある。それでも、毎回実戦日の朝に「何を打とうかな？」と考える時、新台が候補に挙がらない日はないのだ。

この日もオレは、新台が打ちたいなと思って入店した。しかし入場順からして、絶対に先客で埋まるだろうなと思っていたら…えっ、なんで？　導入されたばかりの「パチスロ蒼天の拳 朋友」が、2台並んで空いているじゃねぇか！
前回、夕方以降から設定6らしき台に座れたこともそうだったが、蒼天の拳の人気があまり無いことは、オレにとって非常に好都合だ。面白いし、出玉もそこそこ早いのになぁ。なんでだろ？　他人が敬遠する台で楽しめているオレが幸せなのか、それとも周りの感覚と違っていることにそろそろ不安を覚えた方がいいのか…でも40歳にもなって、今さらホイホイと自分の好みを変えられないけどな。あ、僕、今日誕生日なんです。そんなことを考えながら、実戦開始。

セオリー通り、3枚ベルと1枚役をポチポチカウントしながら、ボーナス中の背景やセリフでだいたいの設定を絞り込んでいく。すると、小役確率は序盤から良好、ボーナスを数回当てて偶数示唆が先行、そして高設定示唆要素もチラホラ…と、まさに教科書通りの「設定4・6」の動きをしてくれる。そう、蒼天の拳の設定推測は、ちゃんと「偶数、かつ高設定」ならば非常に分かりやすいのだ（とオレは思っている）。だが、そんな簡単に分かってしまって、“分からされて”しまって、話が上手く行き過ぎじゃないか？

そんな漠然とした不安も、2000Gを過ぎても順調な小役確率を見ると徐々に薄れてくる。そして、自身初の「天授の儀」到達、有利区間完走、その終了画面のボタンPUSHで…**設定4以上確定演出が出たぁーー！**　なんだよ～、やっぱり変な心配は無用だったな。あとは差枚＋3000枚以上で「S級」獲得だなっ！　と、安心して次の当りを目指し始めたところが、今日のピーク。その後半日かけて1000枚程度の谷や山を下がったり上がったりして、最後に何とか小山を作ったところで疲れ果てフィニッシュ。うん、設定4だね…。負けなくて良かった、A級！